

スマイルタイムズ

No. 240

バリ島旅行

総務 松井 正

院長夫妻の子息雄貴君の高卒記念ということでインドネシア・バリ島へ3月14日から4泊5日間、2人で旅行をして来ました。“他山の石”としてこの紙面に記録しておきます。

* * * * *

バリ島はもっぱらリゾート地として発達し、周囲のきれいな海、砂浜、椰子やガジュマルの大きな木立、ヒンドゥー教の壮大なお寺がウリになっています。

順不同で特徴を書いてみます。

1) 朝4:00、小浜を車で出ようとしたらフロントガラスが氷りついている。あわてて水をかけて溶かした。道中、気温2度と標示されていた。関空からの飛行時間7時間20分、現地バリは32度。冷蔵庫から出てサウナに入った感じ。

2) インドネシアの通貨の10000ルピアが日本円の約100円、勘が狂う。何でも現地の値札の0を2つ取って換算する。

3) お礼は日本の半分位の大きさで、紙は質が悪く、くしゃくしゃ。女のガイドがなんぼきたなくても値打ちには変わりはないというので、なら、女もなんぼ汚くても同じ値打ちか、と言ってやったら大笑い。

4) この島はサツマイモのような形で東西約170^{km}、南北は約100^{km}。愛媛県ほどの面積に400万人がひしめいている(愛媛県は150万人)。

5) 山が多い、その点四国と似ている。が道は狭いし、舗装は不十分。インドとよく似ている。

6) この島に学校は小中高と沢山あるが、授業は午前中。午後はみな家に帰って家の手伝いをする。

6) 台風は来ない。地震は時たまある。景観の関係で椰子の木立より高い建物はダメで最高4階建。

7) 世界遺産の寺院の中に12^ヶ所四方で闘鶏場がしつらえてある。男たちは闘鶏が好きという。

8) たまに道路沿いを闘鶏用の鶏が闊歩している(食用や卵用の鶏は道路にはいない)。そこに首輪のない痩せ犬がうろついているが2者は喧嘩をしない。

平成28(2016)年3月28日(月)発行
発行者 小浜市多田2-2-1 中山クリニック 院長 中山 茂樹
<http://www.Nakayamaclinic.jp>

... ..

飼い主は夫々にいる。猫はほとんどいない。

9) この島のライステラス(棚田)は宏大。世界遺産に登録されている。日本でも能登半島やおおい町、音海の棚田も美しいが、こちらには負ける。

10) 私たちの泊まったホテルは「グランド・ハイアット・バリ」、敷地一辺1km以上、その敷地内に3階建て程の星形のヴィレッジが4ヶ所、その他で全640室、1泊3万円也。

紙面が尽きました。このくらいで擱筆します。

フランス(シラク3原則)に学べ

ネットで拾った記事です。前号(当紙239号)の木村浩三Dr.の文に続く内容になります。某・大手生命保険の社長が語っておられた話を採録しました。

群馬県上野村の黒澤丈夫村長に会った時のことです。彼は村長を10期40年も務めた人。長く村長をやってきて、何が一番嬉しかったかと問うと、「去年、10年ぶりにこの村に赤ちゃんが2人も生まれたことだ」と。そして、この赤ちゃんの母親はどちらもフィリッピン人だ。俺は彼女たちがこの村へ嫁いで来た時やけ酒を飲んだ。「海軍兵学校の生き残りでフィリッピン戦も戦った。日本男児はここまで落ちたのか、なぜ日本女性と結婚できないのか」。でも彼は涙を浮かべて続けた。「しかし、元気な赤ちゃんの顔を見たら、いかに俺は阿保だったかようやく分かった。赤ちゃんを産んでくれてありがとう。これから俺はこのフィリッピンの2人の花嫁を日本に来て本当によかったと思ってもらえるよう、そのためだけに仕事をする、と決めた」と。

これを語る社長の故郷は三重県美杉村。くにに帰ると網の中で人が生きている。かつて8000人いた人口が半減してサルとシカとイノシシの天国になっている。家や畑の周りを網で囲わないと生きていけなくなっていましたと。

《あとがき》1、当院、ミニギャラリーは増山昭次さん(小浜市遠敷)の左義長風景(勝山市)です。ひとり撮影に出かけての作品です。撮るの案外難しいのですよ。